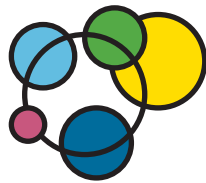


そわにえ Soigner



第20号

「Soigner (ソワニエ)」とは、「世話をする・手当てする」という意味のフランス語です。

2010年12月20日発行

発行/東京訪問看護ステーション協議会(責任者 嶋森好子)
〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町4-17 (社)東京都看護協会内
TEL: 03-5229-1281 / FAX: 03-5229-1524
<http://www.tokyohoukan-st.jp>

INDEX/

- | | |
|---------------|------------------------|
| ぼん・くらーじゅ…………① | チームケア推進
フォーラム報告 ……⑥ |
| ブロック会活動報告 ……② | 東京アルバム ……⑦ |
| ステーション紹介 ……④ | 編集後記他 ……⑧ |



新しい夜明け

「訪問看護師だから ミエルコト」

スギメディカル株式会社
看護事業開発担当部長

佐野けさ美



私は、大学病院勤務の後、会社の健康管理室又は診療所勤務を経験し、病院で療養する人から、障害や疾患を持ったまま社会で仕事をする人をみてきました。病院では17歳の白血病の患者さんが、「家族と一緒に畳の部屋で最後を迎えたい。」と希望され個室病棟の一室に畳を運び、お父さんお母さんと生活しながら終末期を送りました。また、会社の診療所や健康管理室では、糖尿病や腎不全の患者さんの家を訪問し、食事指導や生活指導を行うことができました。そこでの経験は衝撃的でした。清潔や不潔、睡眠、食事、排泄など基本的欲求に対する様々な理解があり、自分の価値観では理解できないことも……。

病院のように見ず知らずの外来患者ではなく、一緒に働いている仲間の家に訪問した場合、価値観の相違は療養の質を左右することを理解していただくために、指導するの

ではなく、一緒に考え対象が自らを変えられることができる状態を整えることだと考えました。「看護は家にあり」と思い、訪問看護ステーションを立ち上げました。

およそ10年が経過し、「看護を一般の人に知ってもらいたい」「看護の価値を看護師だけのものにするのではもったいない!」と思うようになり、現在の仕事に就きました。訪問看護師は私が経験したようなそれぞれの家庭を訪問し、「衝撃!？」を受け、自分の価値観との相違に苦しみ、利用者が元気であればもっとその人の望みは叶えることができるのに……と、どうしたらよいか苦悩し、最終的には寄り添い、その人を受け入れ、自己効力感を高めるよう働きかけることが一番の看護であると思い、日々利用者を見守っているのだと思います。

これが「人間関係の構築」というのでしょうか、在宅療養者に対してポジティブに働きかけることができるのは「訪問看護師ならでは」だと思います。この知的財産はあまり「知的財産」として知られていませんが、一般の生活者にとって重要な「自らの健康に係る看護知識」だと考えます。今後は、これらの看護の知識を広く一般に広め、専門的な要素はさらに磨き上げエキスパートになることが今後の訪問看護師の未来だと考えています。

Bon Courage

ぼん・くらーじゅ